

民主党が定数削減法案を強行可決 「民主主義壊す」佐々木議員が批判

民主党提出の衆院選挙制度関連法案（定数削減法案）が28日、衆院本会議

で、与党の賛成多数で強行可決された。日本共産党な

どの野党各党は採決強行に抗議し退席しました。

佐々木憲昭議員は、本会議に先立つ議院運営委員会で、本会議での法案採決強行をやめ各党協議に応じるよう求めました。佐々木氏は、選挙制度は議会制民主主義の土台であり、民主党1党だけで強行することは「民主主義を大本か

ら壊すものだ」と抗議。民主党が各党協議を一方的に打ち切った法案提出から採決まで単独で強行してきたことを「憲政史上、これほどの暴挙はない」と批判しました。さらに佐々木氏は、消費税増税を国民に押し付ける口実に「身を切る改革」と議員定数削減を狙っていると批判しました。



アメリカ本国では住民の反対で中止 オスプレイ配備やめよ

議員
井上
参院
予算
委

井上さとし参院議員は27日、予算委員会で、米軍のMV22オスプレイの普天間基地配備は、国民の安全より米軍を優先するものであり、許されないと追及しました。

井上氏は、米軍報告書（環境レビュー）によると日本全土がオスプレイの低空飛行訓練場にされると指摘。同氏が行った自治体の実態調査のなかで、「安全性が実証されないかぎり低空飛行訓練は反対」との声が上がっていることを紹介し、「米国ではニューメキシコ州などで住民の反対で訓練が中止になった。米側に訓練ルートや計画を公開させ、自治体、住民の声を聞き、合意が得られないものは中止すべきだ」と迫りました。



これに
対し、森
本防衛相
は、「個々

の訓練の運用計画を米側は明らかにしないし、軍事的な目的であるため、（明らかにする）必要はない」と強弁しました。

さらに井上氏は米軍報告書には、日本の航空法の最低安全高度を下回る高度での訓練が明記されているとのべ、「国民の命と安全を

守る姿勢があるなら、訓練中止をアメリカに求めよ」と迫りました。野田首相は、「安全面にたいする配慮を米側に求める」と繰り返すだけ。井上氏は、南米でオスプレイの低空飛行訓練を行った司令官が「なじみの薄い場所でも過酷な訓練を行ういい機会」と述べていることを示し、米軍が国内でできない過酷な訓練を日本で行い、侵略能力を高めるための配備の中止を迫りました。

原発撤退をシンポで河江候補

広げよう」と述べました。

河江明美衆院東海比例候補は26日、愛知県安城市で開かれた「原発の危険性と自然エネルギーの可能性を考える」シンポジウム（党西三河地区主催）に3人のパネリストの1人として出席し、党の「原発からの撤退、自然エネルギーの本格的導入を」の政策を紹介しました。

河江氏は「節電の努力もあり、今年の夏の電力需給の見通しで原発の再稼働なしでも電力不足がないことがわかりました」「東海地方の温暖な気候や地形を生かして太陽光発電や水力発電を

